

小正小学校の現職教育

1 29年度のテーマ

『主体的に学び、自己の考えを深める児童の育成』

— 自己の学習を振り返り、次の学習に生かそうとする算数科の授業実践を通して —

2 テーマ設定の理由

平成28年12月に中教審から「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）が出され、その中で、現在の子どもたちの課題や2020年頃から30年ごろの社会を見据えて子どもたちに求められることとして、以下のことが指摘されている。

- ・学ぶことの楽しさや意義を実感すること
- ・自分の判断や行動がよりよい社会作りにつながるという意識をもつこと
- ・根拠を明示しながら自分の考えを述べること
- ・知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構成や内容を的確に捉えたりしながら読みとくこと
- ・ルールやマナーを学び、規範意識を高めていくこと
- ・人としてよりよく生きる上で大切なものは何かなどについて考えを深めること
- ・加速度的に進展する情報化やグローバル化といった社会的変化に対応すること

一方、28年度のCRTの結果から見える、本校児童の現状は以下の通りである。

- ・文章の構成や、文のつながり、表現の工夫に関する領域の正答率が低い
- ・図形の特徴を活用した問題や、表を用いて二つの数量の関係性を見いだす問題の正答率が低い

この現状から、本校児童は、習得した知識や技能を活用して、新たな知識や概念を理解したり、自己の考えを創り出したりする能力を身に付けていく必要があると考える。この能力は、これからの社会を生き抜く児童にとって必要不可欠な能力である。

これらのことを踏まえ、平成32年度から次期学習指導要領の完全実施を見据えて、本校が取り組む研究テーマを「主体的に学び、自己の考えを深める児童の育成」とする。

「主体的に学ぶ」とは、課題を見つけたり、課題解決に向けて見通しをもったり、解決方法を探ったり、学習活動を振り返って次の活動につなげたりすることである。

「自己の考えを深める」とは、習得した知識や技能を活用しながら、自己内、友達、教師などとの対話を踏まえ、自己の考えと比較、統合しながら新たな考えを創り出すことである。

このような児童の育成には、教科に限らず、総合、特活、道徳、外国語活動等、全ての学校教育活動で実践可能であり、各教科、各活動ごとに目指す児童像を具体化する必要がある。また、昨年度までの取り組みとして、道徳を中心に「相手を思いやる心」を育てる実践を本校は行ってきた。この「相手を思いやる心」も、児童が生きていく上で大切な資質である。相手を思いやるには、自分が置かれた状況を的確に捉え、そのことを踏まえて、全体がよりよくなるためには、どのような判断をするとよいかを考え、行動することが必要である。今までの実践も継続して、相手の考えを思いやり、尊重していく中で、自分の考えにも取り入れて深めていくことも取り組んでいきたい。そこで、研究1年次として、各教科、各活動ごとに具体化した目指す児童像の共通理解を図るために、「算数」を研究対象として取り組むこととする。算数においては、CRTの結果から高学年になるにつれて、前年度の全国平均との差が縮まったり、全国平均を下回ったりしているのが現状である。また、算数では、問題の解にたどり着くまでに論理的な思考を働かせたり、解にたどり着いた方法を分かりやすく説明するために、順序立てた文の構成や具体物・図表などの活用が必要になったりする。さらに、全学年共通した教科でもあることから、段階性・系統性をもって学校全体で共通して取り組むには適当な教科であると考え。そこで研究のサブテーマを～自己の学習を振り返り、次の学習に生かそうとする算数科の授業実践を通して～とする。

3 研究構想図

